

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520633

研究課題名(和文) 中世イタリアにおける支配者層の文化空間意識

研究課題名(英文) Space and Culture of Ruling People in Medieval Italy

研究代表者 山辺 規子 (S. YAMABE NORIKO)

奈良女子大学・文学部・教授

研究者番号：00174772

研究代表者の専門分野：西洋史

科研費の分科・細目：史学 西洋史

キーワード：イタリア 中世都市 支配者層 空間

1. 研究計画の概要

通常、イタリアの都市貴族は、都市内においては、中世中期には塔を一つのシンボルとして、中世後期には中核となる館(Palazzo)を有して、一定地区を基盤としていたとされる。従来都市貴族は否定的に捉えられてきたが、都市の政治をリードした支配者層の中には、都市貴族層が常に含まれており、都市支配の拡大にともなって自らの勢力範囲を拡大し、都市域整備、都市のシンボル構築、都市のイメージ作りに関与していくと考えられる。

本研究は、その実態を明らかにするために、以下の4つの柱をたてた。

- (1) ローマを中心とする中部イタリアの諸都市の比較対照研究。
- (2) 北イタリアの諸都市の比較対照研究。
- (3) 『健康全書』写本特徴の研究。豪華写本をやりとりする支配者層の婚姻関係、建築・美術専門家グループによるネットワークなどに着目。
- (4) 南イタリアの諸都市の比較対照研究。中部イタリア、北部イタリアと対照する。

2. 研究の進捗状況

当初の計画では、中部イタリアについては、初年度においてデータ収集をおこなう予定だったが、各州のデータをあわせて検討するために、データ収集だけで2年を要した。

2～3年目には、北イタリアの都市比較研究計画しており、以下の都市について、この期間に都市空間のありかたについて、確認調査をおこなった。

- (1) ヴァレ・ダオスタ州 アオスタ
- (2) ピエモンテ州 トリノ アステ
- (3) ロンバルディア州 ミラノ ベルガモ ブレッシア コモ モンツァ パヴィア
- (4) エミリア・ロマーニャ州 ボローニャ モデナ フェラーラ
- (5) ヴェネト州 ヴェネツィア ヴェローナ パドヴァ
- (6) トスカナ州 フィレンツェ シエナ ルッカ ピサ
- (7) ウンブリア州 ペルージャ アッシジ トーディ フォリーニョ
- (8) ラツィオ州 ローマ ヴィテルボ
(なお、以上の都市以外に、パルマ、ピアチェンツァ、クレモナなどについては、既に調査確認をおこなっている。)

海外調査のために十分な時間がとれなかった状況下では、以上の調査状況ではかなりの確認調査をおこなえたが、本務校大学研究室の改修工事のために、調査結果についての十分な考察がまだできていない。特に計画で調査予定だった南部のカンパーニャ地方については調査できていない。

都市を基盤に活動した支配者層について、他国との比較で皇帝家によるイタリア支配のありかたについて、女性の活躍を中心にシ

ンポジウムで論じる機会を得た。

国際的な共同研究推進については、ローマ大学のファリーニ教授、およびボローニャ大学のモンタナーリ教授、ムツァレリ教授に加えて、ボローニャ国立文書館関係者、ミラノ大学のキットリーニ教授と意見を交換した。

また『健康全書』については、一般向きにさまざまな観点から論じる機会を得るとともに、最新のファクシミリ版も入手した。さらに若手フランス美術史研究者との共同研究を進める準備をおこなった。

この『健康全書』およびボローニャなどの都市のありかたについてはWEBで論じている。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

本年度研究室がある建物改修にともなって、一部機器や収集した資料が利用できない状況にあった。また、大学において学科長職にあったが、予定外にインフルエンザなどの対応に追われることになり、研究時間を十分にとることができなかった。

4. 今後の研究の推進方策

来年度は、本来ならば最終年度なので、これまで調査できていなかったところについて調査をし、全体としてのまとめをする予定であった。

しかしながら、本務校で小学校校長職(少なくとも任期2年)就任が決まり、調査がどの程度できるか、あるいはその結果を踏まえての議論がどれほどできるかは、現時点では不透明である。そのため、より広く多様なデータを集積したうえで、特に都市空間と支配者のありかたについて議論を進めるためには、研究をより長いスパンで進めていく必要があると感じている。そのため、本研究をより望ましいかたちでまとめるためには、平成23年度(2011)年度以降も、継続性の高い研究を想定して続けて研究をすることが望ましいと考える

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- 1 山辺規子「見知らぬ食との出会い」『VESTA』70号、2008年、58-61頁。
- 2 山辺規子「西洋のオリジナル・ダイエット」『VESTA』69号、2008年、44-49頁。
- 3 山辺規子「ロマンスと食—中世ヨーロッパ世界から」『VESTA』68号、2007年46-51頁
- 4 山辺規子「西洋の伝統における健康バ

ランス」『VESTA』67号、2007年54-59頁

5 山辺規子「ローマの城壁」『奈良女子大学21世紀COEプログラム 古代日本形成の特質解明の研究拠点報告集 古代都市とその形制』2007年120-136頁

〔学会発表〕(計1件)

1 山辺規子「西洋中世の貴族の「家」維持と<母>機能」比較家族史学会2008年秋季研究大会2008年11月8日 椋山女学園大学

〔図書〕(計4件)

- 1 山辺規子 (竹中克行・周藤芳幸との共編)『地中海ヨーロッパ』2010年、朝倉書店、480頁。
- 2 山辺規子 (南直人との共監訳)『<世界>食の歴史』2009年 (P.フリードマン著)、東洋書林、367頁。
- 3 山辺規子『ノルマン騎士の地中海興亡史』2009年、白水社、262頁。
- 4 山辺規子 (斎藤寛海・藤内哲也との共編)『イタリア都市社会史研究入門—12世紀から16世紀まで』2008年、昭和堂、296+xxxiii頁

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ

<http://nyamabe/fem.jp>